

藝園と草牧



雪印種苗株式会社

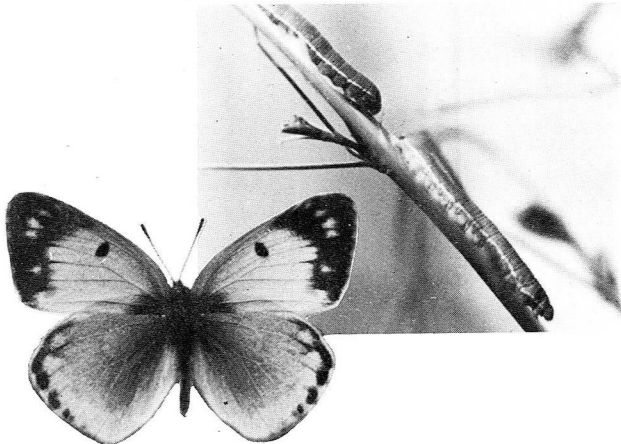
牧草の害虫（Ⅲ）

酪農学園大学講師 坂本与市

モンキチョウ

各地に広く分布する。幼虫は長さ4 cm位に達し、全体緑色で、気門線は黄白色である。一般にミアオムシと呼ばれ、ルーサン、クロバー類の他、マメ科作物を広く食害する。

北海道では年3回位世代をくり返し、大発生して大きな被害を与えることはないが、毎年普遍的に発生しているのでその害は少なくない。成虫は翅の開幅5 cm位の黄色中形の蝶で、マメ科牧草畑では春から秋まで、常にその姿を見ることが出来る。写真は8月下旬、札幌地方で二番刈草のルーサンを加害しているものである。



モンキチョウ



ヒナバッタ

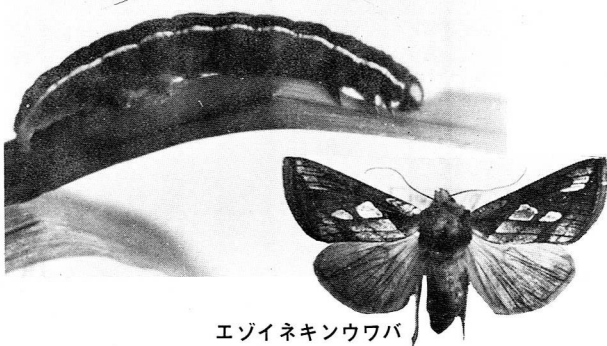
バッタ類

オーチャード、チモシーなどのイネ科牧草を加害するバッタ類には数種ある。なかでもトノサマバッタ、ヒナバッタ、フキバッタ、ヒシバッタ、ツチイナゴ、エゾイナゴなどがよく知られている。一般に単一種では大きな加害を与えないが、各種を合せれば相当大きな加害があるものと思われる。またこの類はひとたび群棲性になると、ほとんどの植物を食いつくす例がしばしば観察されている。写真は8月下旬、日高地方でオーチャード畑に群棲して加害していたヒナバッタである。

エゾイネキンウワバ

キンウワバ類でマメ科牧草を加害するものは数種あるが、北海道でイネ科牧草を加害しているものにエゾイネキンウワバがある。5月下旬から7月下旬にかけて幼虫がオーチャードなどの葉を盛んに食害しているのをよくみかける。幼虫は4.5 cm位に達し、やや透明な全体緑色で、腹部は黄緑色をおびて、中央に金白色紋をもった中形の蛾である。

札幌地方では6月と8月の2回蛾の発生をみる。写真は7月下旬、札幌地方でオーチャードを加害しているものである。



エゾイネキンウワバ